

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

令和5年度

令和6年度

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画	
誰もが自分らしく地域で力を心集めて暮らす社会の構築を目指す（地域づくり）	心でつながり地域づくり	地域における福祉ネットワークの構築	○地域交流の推進									
			ミニデイサービス事業の実施	1	年12回以上	23地区 / 24地区	B	ボランティアの確保が困難等の理由により事業を中止・延期した地区があり、1地区で年12回を下回った。 事業実施地区社協の実績合計は、通常開催が548回（延べ参加者11,218人、延べボランティア5,510人）、郵送等の取組が29回（延べ郵送人数1,746人）であり、会場に来ることができない参加者も含めて、地域交流の推進に努めた。 参加要件（介護保険認定外・地区境界の方）、食事手配（配達不可・物価高騰）、コロナ後の参加者・ボランティア離れなどが課題となっている。 なお、悪天候やコロナの感染拡大防止により開催出来ずに年12回を下回った1地区については、開催したとみなし実績に計上している。	年12回以上	各地区でミニデイサービス事業を年12回以上実施する。 課題である参加要件や食事手配については、予算ヒアリングの際に地区の状況を確認し、必要であれば地区社協会長会議などで協議をする。 また、ボランティアの確保については、新たに市が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。		
			ふれあい・いきいきサロン事業の実施	2	年12回以上	22地区 / 24地区	B	ボランティアの確保が困難等の理由により事業を中止・延期した地区があり、2地区で年12回を下回った。 事業実施地区社協の実績合計は、通常開催が597回（延べ参加者9,660人、延べボランティア3,246人）、郵送等の取組が25回（延べ郵送人数878人）であり、会場に来ることができない参加者も含めて、地域交流の推進に努めた。 コロナ後の参加者・ボランティア離れなどが課題となっている。	年12回以上	各地区でふれあい・いきいきサロン事業を年12回以上実施する。 課題であるボランティアの確保については、新たに市が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。 参加者の募集については、市社協ホームページやSNS、市ホームページ、地区社協広報誌などで行っています。		
			地域福祉まつり事業の実施	3	年1回以上	23地区 / 24地区	B	ボランティアの確保が困難等により1地区において事業を中止した。 事業実施地区社協の実績合計は通常開催が33回（延べ参加者35,792人、延べボランティア4,497人）であり、コロナ前より規模を縮小しつつも概ね従来どおりの方法で開催し、地域交流の推進に努めた。 久しぶりの開催で地域の方から反響があった一方、ボランティア離れなどが課題となっている。	年1回以上	各地区で地域福祉まつり事業を年1回以上実施する。 課題であるボランティアの確保については、新たに市が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。		
			子育てサロン事業の実施	4	年12回以上	21地区 / 24地区	B	ボランティアと参加者の確保が困難等の理由により事業を中止・延期した地区があり、3地区で年12回を下回った。 事業実施地区社協の実績合計は371回（延べ参加者11,156人、延べボランティア1,834人）、郵送等の取組が2回（延べ郵送人数58人）であり、会場に来ることができない参加者も含めて、地域交流の推進に努めた。 地域性により参加者が少ない、コロナ後のボランティア離れや高齢化などが課題となっている。 なお、悪天候やコロナの感染拡大防止により開催出来ずに年12回を下回った3地区については、開催したとみなし実績に計上している。	年12回以上	各地区で子育てサロン事業を年12回以上実施する。 前年度の課題や問題点などのヒアリングを行い、会長会議などで解決に向けた協議をすすめる。 課題である参加者が少ないことについては、予算ヒアリングの際に地区の状況を確認し、必要であれば地区社協会長会議などで協議をする。 課題であるボランティアの確保については、新たに市が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。 参加者の募集については、市社協ホームページやSNS、市ホームページ、地区社協広報誌などで行っています。		

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画		
誰もが自分らしく地域の力を安心して暮らせる社会の構築を目指して（地域づくり）	心でつなぐ地域づくり	地域における福祉ネットワークの構築	・ミニデイサービス事業、ふれあい・いきいきサロン事業、地域福祉まつり事業等の推進（地区社協）	広報事業の実施	5	年1回以上HP更新は適宜	24地区 / 24地区	A	各地区で年1回以上、広報紙を発行した。 24地区社協の実績合計は発行数51回、発行部数446,820部、延べボランティアは294人であり、各地区で工夫を凝らした紙面編集・情報発信を行いながら、地域交流の推進に努めた。 広報紙の配布方法（町会・自治会経由、ポスティング、折り込み）、コロナ後のボランティア離れや高齢化などが課題となっている。	年1回以上HP更新は適宜	各地区で広報事業を年1回以上実施する。 課題である配布方法は、予算ヒアリングの際に地区の状況を確認し、必要であれば地区社協会長会議などで協議をする。 課題であるボランティアの確保については、新たに市が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。		
			○地域生活支援の推進										
			・生活支援協議会の設置・開催	生活支援協議会の設置・開催	6	年2回以上	21地区 / 24地区	B	年間を通して開催の機会がなかった3地区で年2回を下回った。 事業実施地区社協の実績合計は168回であり、地区で独自に設置した会議体で開催するほか、地区社協の理事会、たすけあいの会の定例会など、既存の会議体を活かしながら開催し、地域の課題を共有し意見交換を行っているが、開催していない地区については、開催機会がなかったや生活支援コーディネーターの欠員期間が長く実施できていない。	年2回以上	課題や問題点などのヒアリングを行い、市に配置されている第1層生活支援コーディネーターと情報共有等を行いながら、協議体で協議をするよう促し、年2回の開催を地区に働きかけを行う。		
			・助け合い活動の推進	地区社協型のたすけあいの会の立上げ完了地区	7	18地区	18地区 / 24地区	A	新たに立ち上げをした地区はなく、18地区において社協型のたすけあいの会が発足しているが、ボランティアの高齢化や体制が整わずに休会する3地区が含まれる。 なお、たすけあいの会の立上げには至っていない地区が6地区あるが、協力の意思を示すボランティアを増やしている3地区がある一方、ボランティア不足などで立上げに至っていない3地区がある。	18地区	課題や問題点などのヒアリングを行い、市に配置されている第1層生活支援コーディネーターと連携し、引き続きたすけあいの会の立ち上げ支援を行う。 課題であるボランティアの確保については、新たに市民協働課が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。 休会中の地区については、サービスの見直しを行い、サービス提供が出来るよう支援する。		
			・助け合い活動の推進	独立型のたすけあいの会の新規立ち上げ数	8	1団体	0団体	D	新たに立ち上がった団体はなかった。 既存の団体の中でもボランティアの高齢化や人材の確保が難しく、会の存続が難しくなるなどの課題が挙げられている。	1団体	たすけあいの会ネットワーク情報交換会やヒアリングなどで課題を確認し、市社協、生活支援コーディネーター、市に配置されている第1層生活支援コーディネーターと情報共有し、引き続きたすけあいの会の立ち上げ支援を行う。		

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画	
誰もが自分らしく地域で安心して暮らす社会の構築を目指す（地域づくり） 心でつながる地域づくり	地域における福祉ネットワークの構築	・助け合い活動の推進	たすけあいの会ネットワーク情報交換会の開催数	9	年1回	年1回	A	8月28日に4年ぶりとなるたすけあいの会ネットワーク情報交換会を開催した。 10地区社協ならびに14の独立型たすけあいの会関係者38名、生活支援コーディネーター22名、地域コーディネーター3名のほか、市・社協職員を含め計73名の方が出席し、県社協による県内たすけあいの会の状況報告とグループディスカッションを行った。	年1回	地域における福祉ネットワークの構築や助け合い活動の推進を目的に、たすけあいの会ネットワーク情報交換会を7月23日に開催した。24地区社協ならびに15の独立型たすけあいの会関係者40名、生活支援コーディネーター21名、地域コーディネーター3名、ほか市・社協関係職員の計73名が出席し、市内のたすけあいの会の状況とホームページでの情報発信の説明、グループディスカッションを行った。		
			生活支援コーディネーターのコーディネート業務の強化	生活支援コーディネーター連絡調整会議の開催	10	月1回	月1回	A	グループワークや出前講座などを活用しながら、生活支援コーディネーター連絡調整会議を月1回開催した。 主な取り組みとして、情報発信や活動を周知する取り組みとして、第1層と第2層生活支援コーディネーターが連携し、生活支援コーディネーターの周知ポスターを作成した。	月1回	生活支援コーディネーターのコーディネート業務の強化を目的に、生活支援コーディネーター連絡調整会議を月1回開催する。	
		○ボランティア登録者数の増員										
		「ボランティア」の確保・充実	・ボランティアセンターのコーディネート機能の強化	ボランティア講習会	11	年1回	年1回	A	3月27日に開催。ボランティア登録団体である「槇の会」を講師に迎え、バルーンアート体験を行い、17名が参加した。内3名が「槇の会」へ入会し、後継者育成につながった。 その他の登録団体からも後継者不足が課題として挙げられているため、引き続き講習会の開催を通してボランティア活動や団体の周知を行っていきたい。	年1回	ボランティア依頼が多く、また、将来的にも多数の要請を受けることが予想される団体が継続的に依頼対応できる様、後継者の養成を目的とする講習会を3月19日に開催予定。	
				ボランティア情報交換会	12	年2回	年2回	A	1月30日と令和6年2月27日に開催。1回目は10名、2回目は6名が参加した。ボランティアを始めたきっかけや活動内容、課題と感していること等を話し合い、参加者同士の交流を深めた。コロナ後に久しぶりにボランティア活動を再開した方も多く、高齢化や依頼の減少など様々な課題が挙げられた。	年2回	ボランティア同士の交流の機会づくりとして、情報交換会を9月4日、3月5日に開催予定。	

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく地域で安心して暮らせる社会の構築を目指して（地域づくり）	心でつなぐ地域づくり	「ボランティア」の確保・充実	・福祉教育の推進	福祉読本の配布	13	年1回	年1回	A	8月に市内小学校55校の4年生に対して5,902冊の福祉読本を配布した。令和6年1月には福祉読本の活用状況に関するアンケートを行い、30校より返信があり、校長会でも配布時期を年度初めにしてほしいという意見ももらったため、今後の検討課題とした。	年1回	市内小学校55校の4年生に対し福祉読本を配布し福祉教育の推進に努める。前年度のアンケートで、年度初めに配布してもらえば、授業などの計画に取り組みやすいという意見があったため、今年度は配布時期を早め、6月7日に配布が完了した。 また、各小学校に向け、福祉読本の活用に関するアンケートを実施する。
				体験学習の実施	14	年5校	年15校（うち貸出13校）	A	小学校2校は学校に訪問し、地区社協や福祉団体の協力のもと体験学習を実施した。また、福祉教育の事業として福祉用具を貸出した13校（小学校9校、中学校4校）については、福祉用具の貸出時や返却時、学校の先生に体験学習の目的や実施の様子、子どもたちの変化などを聞き取りながら連携を図った。 その他、船橋市役所の採用2年目研修や地区社協事業でも福祉教育を行い、高齢者や障がいをお持ちの方に関する学びを深めた。	年5校	市内小中学校にて車椅子、白杖、高齢者疑似体験等の体験学習を実施する。また、依頼に応じ福祉用具の貸出を行い、福祉教育の推進に努める。 学校での福祉教育の実施について、4月の校長会で周知活動を行った。 また、福祉体験学習を見えるように紹介するメニュー表の作成を検討する。
				ボランティア育成事業の推進（地区社協）	15	年1回以上	24地区 / 24地区	A	各地区で年1回以上、ボランティア育成事業を開催した。 24地区社協の実績合計は通常開催が145回（延べ参加者3,705人、延べボランティア840人）、郵送等の取組が2回（延べ郵送人数24人）であり、会場に来ることができない参加者も含めて、地域交流の推進に努めた。既存ボランティアの交流や定着に繋がっている一方、新たなボランティアの確保（特に若い世代）が課題となっている。	年1回以上	各地区でボランティア育成事業を年1回以上実施する。 また、ボランティアの確保については、新たに市市民協働課が運営している「ふなばし市民力発見サイト」にボランティア募集のページを作成する他、進学や就職、ボランティア休暇を考えている方々のボランティアをするきっかけづくりとしてボランティア証明書を発行する。 また、引き続き、ボランティア活動への参加を各種団体の会議や市民大学の講座、大学の授業などでPR・説明を行う。
				ボランティア参加への環境整備	16	年3回 ↓ 年2回	年2回	A	「ふなばし福祉」を年2回発行し、第4次船橋市地域福祉活動計画の概要、社会福祉協議会の事業及び古切手ボランティアの活動紹介、中学生ボランティア養成講座、フードドライブ、おもちゃの図書館、不要入れ歯回収、古切手回収、社会福祉協議会でのボランティア活動や募集などについて、情報を発信した。 ※予算の関係上、発行回数を見直したため、年2回の発行となった。	年2回	広報紙によるボランティアの情報発信のため、「ふなばし福祉」を年2回発行する。 ※発行回数を見直したため年2回の発行

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく地域の力を安心して暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり）	心でつながる地域づくり	「ボランティア」の確保・充実	・ボランティア参加への環境整備	広報紙による情報発信（地区社協だより）	17	年1回以上	24地区 / 24地区	A	各地区で年1回以上、広報紙で情報発信をした。24地区社協の実績合計は発行数51回、発行部数446,820部、延べボランティアは294人であり、各地区で工夫を凝らした紙面編集・情報発信に努めた。	年1回以上	各地区で広報紙による情報発信を年1回以上実施する。
				ホームページ・SNSによる情報発信（市社協・地区社協）	18	週1回以上	週1回以上	A	地区社協及び市社協の情報発信回数は389回であり、お知らせやイベントスケジュール、ブログ（ふくしろうの部屋）、市社協公式Xにおいて各地区の事業を紹介し、ボランティア参加の呼びかけなどを随時行った。	週1回以上	市社協及び地区社協において、ホームページ・SNSによる情報発信を週1回以上実施する。 なお、ホームページ閲覧者がさらに検索し、見やすくなるように4月にリニューアルを行った。
				ボランティアスタート講座の開催	19	年1回以上	年1回	A	3月6日に開催し、11名が参加した。ボランティアの心構えや保険の説明等、新たにボランティアを始める方に向けた講習を行った。ボランティアに興味はあったものの始めるきっかけがなかった方や、コロナが明け新しいことを始めたい方、元々ボランティアをやっていたがさらに活動の幅を広げたい方など様々な方にご参加いただき、交流会を通してそれぞれの価値観を共有することが出来た。	年1回以上	ボランティアを始めたい方やボランティア活動をして間もない方にボランティア講座などを行い、ボランティア活動のきっかけづくりをする目的として、10月30日に開催予定。
				中学生ボランティア養成講座の開催	20	年1回	年1回	A	8月2日、3日の2日間で開催した。市内在住の中学生15名が参加した。ボランティア団体による演奏、地区社協たすけあいの会や大学生ボランティアなど地域で活動している方による講話、船橋市聴覚障害者協会による手話講座、三和商事株式会社による災害ボランティアの講話・非常食・AED体験など、多くの方にご協力いただき参加した中学生から好評を得た。 参加者が少ないため、1日での開催や周知活動が検討課題となっている。	年1回	検討課題となっていた1日開催や周知活動については、気軽に参加できるように日程を1日とした。また、周知活動については、従来の広報掲載やホームページによる周知に加え、市内中学校に対してクラスに掲示するチラシを配布するとともに、市と共催している「地域に飛び出せ！！ふなばし夏のボランティア体験」にもエントリーし7月7日に開催したマッチング会にて周知して、参加者を募った。 8月2日に市内在住の中学生24名の参加で、以前から行っている災害ボランティア関係、障がい者福祉関係、芸能ボランティア関係の講話や体験を行った。

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく地域の力を安心して暮らす社会の構築を目指して 誰もが自分らしく地域の力を安心して暮らす社会の構築を目指して	心でつなぐ地域づくり	「ボランティア」の確保・充実	・ボランティア参加への環境整備	地域に飛び出せ！！ ふなばし夏のボランティア体験の開催	21	年1回	年1回	A	市との共催である本事業に参加。参加地区社協と施設の取りまとめの他、6月18日に中央公民館、7月1日に高根台公民館にて、ボランティアマッチング会の設営準備、受付、会場内での案内等を行った。	年1回	6月29日に高根台公民館、7月7日に市民活動サポートセンターにて、市との共催である本事業に参加。参加する地区社協や施設の取りまとめ、設営準備、受付、会場内での案内等のほか、今年度からボランティア受入団体としてもエントリーし、市社協や地区社協のPRを行うとともに、ボランティアマッチング会ではブースを出展し「船橋市中学生ボランティア養成講座」の参加者募集を行った。
				活動者と活動先をつなぐ仕組みづくりの構築	22	準備期間	—	—	これまでは施設ボランティア募集とボランティアグループ紹介の冊子を作成していたが、個人ボランティアの活動内容がわかるものを作成していなかった。個人ボランティアの活動を促進するため、個人ボランティアの活動内容をまとめたものを活用できないか検討した。	試行期間	ボランティア希望者とボランティアに来てほしい施設等がつながりが出来るよう、個人ボランティアの活動内容を一覧にまとめ、ホームページで周知する。
				町会・自治会（自連協）へのPR・説明会の実施（市社協）	23	年1回以上	随時実施	A	ボランティアの確保・充実に繋がるように、会議や行事の際において、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動を行った。	年1回以上	ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動などを実施する。
				民生委員・児童委員（民児協）へのPR・説明会の実施（市社協）	24	年1回以上	随時実施	A	同上	年1回以上	同上
				町会・自治会（地区連）へのPR・説明会の実施（地区社協）	25	年1回以上	24地区 /24地区	A	総会や定例会、交流会などで、各事業の説明やボランティア依頼をするとともに、広報紙、回覧板でも各事業の周知を行った。	年1回以上	ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動などを実施するとともに、広報紙、回覧板でも各事業の周知を行う。

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
我が自分ら地域の力を安心して結集し暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり）	心でつながる地域づくり	「ボランティア」の確保・充実	・町会・自治会や民生委員・児童委員、PTA、老人クラブ、学生、企業、社会福祉法人などへの働きかけ	民生委員・児童委員（地区民児協）へのPR・説明会の実施（地区社協）	26	年1回以上	24地区 / 24地区	A	定例会で安心登録カード事業などの各事業の説明やボランティア依頼、広報紙での周知などを行った。	年1回以上	ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動などを年1回以上実施する。
				PTAへのPR・説明会（市社協）	27	年1回以上	年1回	A	2月の船橋市PTA連合会の理事会において、ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動を行った。	年1回以上	ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動などを実施する。
				老人クラブへのPR、説明会の実施（市社協）	28	年1回以上	年1回	A	3月の船橋市老人クラブ連合会の理事会において、ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動を行った。	年1回以上	ボランティアの確保・充実に繋がるように、社会福祉協議会が行う事業の協力依頼やPR活動などを実施する。

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく安心して暮らせる社会の構築を目指す（地域づくり）	心でつながり地域づくり	「ボランティア」の確保・充実	・町会・自治会や民生委員・児童委員、PTA、老人クラブ、学生、企業、社会福祉法人などへの働きかけ	学生へのPR・説明会の実施（市社協）	29	年1回	年2回	A	5月の東京医療保健大学（千葉看護学部看護学科地域看護学領域）での講義、和洋女子大学学生への説明を通じて、学生へのPR・説明を行った。	年1回	東京医療保健大学（千葉看護学部看護学科地域看護学領域）の講義（5月16日）や「地域に飛び出せ！！ふなばし夏のボランティア体験」（7月7日）に中学生、高校生、大学生、専門学生の学生へのPR・説明を行った。
				市民大学へのPR・説明会の実施（市社協）	30	年1回	年2回	A	7月にふなばし市民大学校まちづくり学部ボランティア養成学科のカリキュラムにおいて、ボランティア活動についての講義を1回行った。 また、まちづくり学部ボランティア養成学科学生28名のボランティア体験実習を、8月～10月に地区社協で受け入れた。	年1回	ふなばし市民大学校まちづくり学部ボランティア養成学科のカリキュラムにおいて、ボランティア活動について、7月3日に講義を行った また、まちづくり学部ボランティア養成学科学生23名のボランティア体験実習を、8月～10月に地区社協で受け入れを行う予定。
				企業等へのPR・説明会の実施（市社協・地区社協）	31	1団体以上	3団体	A	市社協では、明治安田生命保険相互会社（船橋支社・船橋東営業所）やソフトバンク株式会社、株式会社myふなばしに事業説明を行い、事業に協力してもらった また、各地区社協では、地元商店街などに事業説明を行い、福祉まつりなどではブースの設置や手伝いをしてもらった。	1団体以上	プロ野球独立リーグ球団スカイセイラースや石井食品株式会社、ワークスコープちばに事業説明を行い、スカイセイラースとは福祉まつりなどの地区社協事業での連携、石井食品とは中学生ボランティア養成講座での協力、ワークスコープちばとは制服バンクの協力と就労支援の活動場所の提供してくれることとなった。 各地区においても、ミニデイサービスや福祉まつりなどの事業において、地域内の企業等との連携に努める。
	安心して暮らせる地域づくり	包括的支援体制の構築	・福祉相談（地区社協）の充実	福祉相談窓口の周知の実施（地区社協）	32	年1回以上	24地区 / 24地区	A	各地区で年1回以上、福祉相談窓口の周知を行った。 24地区社協の周知回数は122回であり、広報紙や市社協ホームページ、地区社協前に看板を設置するなどして周知に努めた。	年1回以上	各地区の広報紙や市社協ホームページなどで、福祉相談窓口の周知を実施する。

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画		
誰もが自分らしく地域を安心して暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり）	安心して暮らせる地域づくり	包括的支援体制の構築	・福祉相談（地区社協）の充実	地区社協事務局員等研修会の開催（市社協）	33	年2回以上	年1回	D	3月28日に「就労準備支援事業と地域でのボランティア活動について」というテーマで研修を実施し、地区社協職員としての資質向上に努めた。 他の研修については、地区社協と関係の深い活動を行っている団体の活動内容について講義・情報交換を行う予定だったが、講師調整がつかず、開催に至らなかった。	年2回以上	地区社協職員の相談援助や資質向上を目的とした研修会を年2回以上実施する。		
			○参加支援の推進										
			・就労準備支援事業（市委託事業）の推進	ボランティア活動受け入れ提携企業等の開拓	34	1団体（新規）	1団体（新規）	A	増田農園での野菜の収穫や出荷作業などのボランティア受入れの連携を開始した。 今後も通いたい利用者がいた際にすぐにつなぐためにも、受け入れ先の開拓が必要である。	1団体（新規）	ワークスコープちばの制服バンクでの制服修繕のボランティア受入れの連携を開始した。 今後も利用者の選択肢が増えるよう、市社協と関係している企業などに出向き、事業説明を行う。		
			・居住支援事業（住まいるサポート船橋）の推進	協力不動産店の開拓	35	1社（新規）	0社	D	市内不動産店への協力依頼の訪問や電話、不動産店が来所された際に、協力不動産店への加入について依頼を行ったが、登録には至らなかった。	1社（新規）	日々の相談の中で関わりを持った不動産店や協力不動産店から情報を得ながら、住宅確保要配慮者への理解がある不動産店へ働きかけを行う。 物件情報が少ないエリアの不動産店を重点的に登録を促すとともに、口コミで得られた不動産店にも説明を行う。		
			物件成約数	36	30件	26件	B	成約数については目標値に満たなかったものの、成約以外で居住問題についての解決に繋がった件数は増加傾向にある。 成約件数は26件であるが、成約以外での解決件数は、他機関への連携17件、自力転居18件、UR・公営住宅への入居9件、家族不仲の解消4件、居住継続8件、その他1件の合計57件となっている。	32件	相談者に寄り添った相談支援を行い、成約を含めた解決件数を増やしていくため協力不動産店や関係機関との連携強化を行う。 ※コロナ禍除く、過去3年の成約平均件数30件 ※コロナ禍除く、過去3年の解決平均件数69件			

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画	
誰もが自分らしく安心して暮らせる地域の力を結集し、暮らしを向上させる福祉のまちづくり（地域づくり）	安心して暮らせる地域づくり	包括的支援体制の構築	○地域づくり支援の推進									
			・世代等を越えた交流の場の検討	—	37	—	—	—	10月から福祉ビルでの「古切手サロン」を再開した。これまでの参加者に加えて、新規参加者も数名来ており、10月から3月までに延べ44名のボランティアが参加した。	—	福祉ビルでの「古切手サロン」を継続して開催するとともに、多目的スペースや企業の会議室などを活用しての世代等を越えた交流の場について引き続き検討する。	
			○日常生活自立支援事業の充実と法人後見事業の検討									
			・ふなばし高齢者等権利擁護センター「ばれっと」の充実	出前講座の実施	38	年2回以上	年4回	A	5月25日の地域ケア会議推進会議や9月24日の成年後見人候補者養成講座、11月25日と1月25日の権利擁護サポーター養成講座で事業周知と理解促進を行った。 また、新たな周知先として6月26日の郵便局長会に事業説明及びチラシを配布した。	年2回以上	引き続き、他機関が主催する会議や講座で事業周知と理解促進を行う。 また、新たな周知先を獲得出来るよう関係機関との連携に努めるとともに、市のケアマネ協議会の全体研修で周知を図る。	
			・ふなばし福祉	広報紙による情報発信（ふなばし福祉等）	39	年1回以上	年2回	A	「ふなばし福祉」を2回発行し、事業の周知や生活支援員募集の周知を行い、新たに生活支援員1名の登録に繋がった。 また、市が開催する権利擁護サポーター養成講座の開催通知をふなばし福祉に掲載したところ、市の担当課に多くの申し込みがあり、新たに生活支援員2名の登録に繋がった。	年1回以上	ふなばし福祉にて生活支援員募集や現任支援員の活動紹介を行い、活動内容の周知に努める。 引き続き、市が開催する権利擁護サポーター養成講座の開催通知を掲載し、権利擁護をサポートする市民の発掘に努める。	
			・法人後見事業の検討 ↓ ・法人後見事業の推進	— ↓ 法人後見受任	40	—	1件	—	日常生活自立支援事業を利用する方の中で成年後見制度への移行が必要となった方について、1月に法人として後見受任した。	— ↓ 新規1件以上	令和5年度に受任を開始したケースを通じて、日頃の業務や緊急時の対応など経験を重ねていく。 新たに日常生活自立支援事業利用者で成年後見制度への移行が必要になった方がいれば権利擁護等推進協議会に諮り、受任に向けた準備を進める。 なお、経験を重ねる手段として、市長申し立てについて、その一部を市社協として受任することを視野に入れて取り組んでいく。	

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく地域を安心して暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり） 顔の見える関係づくり	安心登録カード事業の継続・充実	・安心登録カード登録者に対する訪問や電話、ハガキによる見守り活動の推進	訪問・電話による見守り活動の実施	41	16地区 年14,000回	14地区 年13,769回	B	補助金による訪問または電話による見守り活動を14地区で実施した。 事業実施地区社協の実績合計は、見守り回数が13,769回（延べボランティア412人）であり、各地区のボランティアなどにより見守り活動の推進に努めた。	18地区 年16,000回	引き続き各地区のボランティアなどによる訪問・電話による見守り活動を実施する。	
			ハガキによる見守り活動の実施	42	年2回	23地区 /24地区	B	事務局の体制が整わなかったため、1地区で年2回を下回った。 23地区で年2回のハガキの送付による見守り活動を実施し、その合計は発送回数48回、発送数43,894通であり、見守り活動の推進に努めた。 安心登録カードの登録情報の変更確認、往復はがきによるアンケート調査や困りごとを相談するきっかけに活用した。	年2回	各地区において、年2回以上のハガキによる見守り活動を実施する。	
			・安心登録カードの有効活用の検討	43	—	—	—	3月11日に第1回安心登録カード事業運用検討会議を開催し、災害時における安心登録カードの活用について検討を行った。検討結果について、同年3月の地区社協会長会議で報告し、概ね合意を得た。	—	5月20日に第2回安心登録カード事業運用検討会議を開催し、6月10日の会長会議で報告し、安心登録カード事業の手引きを策定した。策定した手引きについて、市民児協理事会と市自連協執行部会・常任理事会に説明し、その後は依頼がある地区の関係団体等への説明を行う。	
			・安心登録カード事業の運用の適宜見直しと充実	44	—	—	—	同上	同上		

第4次地域福祉活動計画進捗状況報告書（令和5年度版）

◆事業実績評価はA・B・C・Dの4段階で評価。  
 A：100%以上：達成できた  
 B：80%以上100%未満：概ね達成できた  
 C：60%以上80%未満：あまり達成できていない  
 D：60%未満：達成できていない

令和5年度

令和6年度

基本理念	取り組むべきテーマ	重点施策	具体的な活動目標	取組目標	No.	目標	実績	◆評価	具体的な実施状況や内容・効果・課題・問題点など	目標	事業計画
誰もが自分らしく地域を安心して暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり）	支えあいの地域づくり	災害時における支援体制の構築	・災害ボランティアセンター運営の環境整備の推進	提携企業等の開拓	45	年1団体以上	0団体	D	災害時の提携について、携帯電話会社やバス会社と協議をしたところ、協定の締結まで至らなかったが、携帯電話の貸与については、県社協を通じて貸与している場合があることが分かった。県社協に確認したところ、県社協を通じて被災された市町村に携帯電話やパソコンなどが貸与されていることが分かった。	年1団体以上	引き続き、地域の企業等に対し災害時における協力をもらえるよう関係性を築くとともに、新たな協定を締結できないか情報収集に努めるなど準備を進める。
				訓練の実施（市社協職員のみ、関係機関との合同訓練）	46	年1回以上	年1回	A	11月に開催予定だったが、直前に会場として使用予定であった外部施設が使用できなくなったため、2月に福祉ビルにて市社協及び市職員を対象とした研修を開催した。 内容としては、市危機管理監より『「受援力」を高め多くの力で船橋を救う』と題した講演をもらったほか、職員が共通認識を持つよう災害ボランティアセンター立ち上げからボランティア派遣までの流れを説明した。	年1回以上	2月1日船橋市総合教育センターにて災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の実施を予定。関係機関や企業との合同訓練を行い、発災時の協力体制を強固なものに出来るよう努める。

令和5年度

評価41項目

A・・・29項目（70%）

B・・・8項目（20%）

C・・・0項目（0%）

D・・・4項目（10%）